

ひやくまん穀生産者部会の現地研修会を開催しました

県央農林総合事務所

石川県が育成した米の新品種「ひやくまん穀」は、大粒で食べごたえがあり、冷めても美味しく、本県の主要品種であるコシヒカリと比べ収量が高いといった特徴を持っています。

平成 29 年から県内各地で栽培が開始され、栽培面積は右肩上がりであり、県央農林総合事務所管内（金沢市・河北郡市）の栽培面積も、180 ヘクタールと昨年の 1.7 倍になっています。

栽培面積の増加に伴い、新規作付農家も増えており、収量と品質の確保が課題になっています。このため、当事務所では、栽培講習会の開催や栽培管理情報の配布などを通して栽培技術の定着に取り組んでいます。

令和元年 7 月 11 日には、県央地区の生産者・関係機関など 100 名余りを参集し、ひやくまん穀研修会・現地巡回を開催しました。

「ひやくまん穀」は収穫時期が遅い晩生品種であり、他品種と生育ステージが異なるため、研修会では「ひやくまん穀」に合わせた防除及び水管理など今後の管理について理解の促進に努めました。新規作付農家や栽培年数の浅い農家を中心に、活発に質疑応答が行われました。

現地巡回では、農家とともに金沢地区の 4 ほ場、河北郡市の 3 ほ場を実際に見て回り、ほ場毎に栽培方法や栽培管理の注意点等を説明しました。生産者からの栽培に対する質問や生産者同士での情報交換が活発に行われ、「ひやくまん穀」に対する関心の高さがうかがえました。

「ひやくまん穀」が、県内外の消費者である皆さまに“ひやくまんぞく”して頂けますよう、今後も取組を進めて参ります。



研修会にて栽培方法を学ぶ



現地巡回にて生育状況を確認

問い合わせ先：農業振興部（076-239-1751）